

講義コード	1E010011
講義名	コミュニケーション学
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1308
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 狩野 真理	指定なし

目的

人間関係において基礎となる言語的・非言語的コミュニケーションについて学び、ロールプレイを通して実践的なコミュニケーションスキルを身につけることを目的とする。さらに、コミュニケーションについての一般的な知識のみでなく、カウンセリングの考え方や技法も取り入れることによって、コミュニケーションスキルの向上を目指す。

到達目標

1. 言語的・非言語的コミュニケーションについて正しく理解することができる。
2. 医療従事者・社会人としての基本的なコミュニケーションスキルについて理解し、実践できるようになる。
3. 学んだ知識と技術を日常生活の中で役立て、さらなるスキルアップができるよう努める。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション：コミュニケーションについて
2. コミュニケーションの基本 (1)：印象
3. コミュニケーションの基本 (2)：ジョイニング
4. コミュニケーションの基本 (3)：聴き方
5. コミュニケーションの基本 (4)：訊き方・伝え方
6. アサーショントレーニング
7. コンプリメント
8. リフレーミング
9. 解決志向アプローチ
10. 対象者とのコミュニケーション場面を想定 (1)
11. 対象者とのコミュニケーション場面を想定 (2)
12. 対象者とのコミュニケーション場面を想定 (3)
13. 対象者の家族とのコミュニケーション場面を想定 (1)
14. 対象者の家族とのコミュニケーション場面を想定 (2)
15. 学習のまとめ、および目標達成度の確認

成績の評価

期末レポート70%・授業内小レポート30%

自己学習

講義・演習内容を日常生活の中で考え、実践してみてください。

履修上の注意

テーマに沿った内容のディスカッションとロールプレイを行います。積極的に取り組み、相互作用の中から多くのことを学び、身につけてください。
また、講義の最後に感想（質問を含む）など小レポートを書き、提出してもらいます。

テキスト

講義の資料として、適宜プリントを配布します。

参考資料

「作業療法ケースブック コミュニケーションスキルの磨き方」（医歯薬出版）澤俊二・鈴木孝治（編集）

「PT・OTのための これで安心コミュニケーション実践ガイド」第2版（医学書院）山口美和（著）

「理学療法士・作業療法士のための治療心理学 患者によりそう行動アプローチ」（創元社）武田建・中俣恵美・出田めぐみ（著）

「ナースのためのアサーション」（金子書房）平木典子（編）

講義コード	1E014011
講義名	スポーツと健康
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1209
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

目的

現代社会の発達は、快適な生活を私たちに与えてくれている反面、オーバーストレスや運動不足を引き起こしている。本講義では、ストレスや運動不足が肥満や動脈硬化などの生活習慣病の原因になること、また日常生活や臨床の場で関わりの深い腰痛、高血圧、肥満などの成り立ちと運動との関わりについての知識を身につけることを目的とする。さらにスポーツはその実践方法によっては身体に悪影響を及ぼすことから、加齢とトレーナビリティ、スポーツ障害などを学び、基礎的な応急処置とその理論を習得する。

到達目標

健康・体力を管理する基本的な知識や方法を理解する。

授業計画表

授業計画

1. 健康とは何か？
2. 生活習慣病とは？
3. 体力とは何か？（体力テストについて）
4. 運動の仕組み①
5. 運動の仕組み②
6. トレーニング理論①（トレーニングの原理・原則）
7. トレーニング理論②（トレーニング計画）
8. トレーニング方法（レジスタンストレーニング）
9. 健康を維持・増進するための運動①
10. 健康を維持・増進するための運動②
11. ウォーミングアップ・クーリングダウン
12. 運動と水分補給
13. スポーツと心理
14. ストレスと疲労への対処法
15. まとめ

成績の評価

小レポート50% 定期試験50%で評価します。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

なし

参考資料

健康・スポーツ科学講義 出村慎一 他 (杏林書院)

オフィスアワー

木曜日

12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 313研究室

aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	1E038011
講義名	リハビリテーション概論
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	保健医療福祉とリハビリテーション
科目ナンバリング	E1-2301
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 和子	指定なし

担当教員

作業療法士としての学びを始めるに当たり、専門職として基盤となるリハビリテーション医療の骨格を知るための授業です。これらの知識の上に、それぞれの専門知識が積み上がっていくこととなります。

目的

医療のあらゆる分野で重要となるリハビリテーション医療の歴史と理念、原則と課題、また、対象となる疾患や障害について学び、リハビリテーション専門職としての役割・機能について教授する。また、社会の高齢化が急速に進むわが国におけるリハビリテーション医療の現状と課題、チーム医療と当事者中心主義の実践について教授する。

到達目標

1. リハビリテーション医療の歴史・理念・原則を理解する
2. リハビリテーションの対象となる疾患・障害について理解する
3. リハビリテーション医療専門職の役割・機能・連携について理解する
4. わが国におけるリハビリテーション医療の現状と課題を理解する
5. チーム医療と当事者中心の実践について理解する

授業計画表

授業計画

- ① リハビリテーションの歴史と基本概念
- ② リハビリテーション専門職とチーム
- ③ 障害や疾患を持つこと：国際生活機能分類と国際障害分類
- ④ ライフステージと疾患・障害
- ⑤ リハビリテーションにおける評価
- ⑥ リハビリテーション治療学
- ⑦ 脳血管・脳損傷のリハビリテーション
- ⑧ 脊髄損傷のリハビリテーション
- ⑨ 神経筋疾患のリハビリテーション
- ⑩ 運動器疾患のリハビリテーション
- ⑪ 循環器疾患のリハビリテーション
- ⑫ 発達障害のリハビリテーション
- ⑬ 慢性疾患・がんのリハビリテーション
- ⑭ 高齢期障害のリハビリテーション
- ⑮ まとめ

成績の評価

成績評価は、(1)筆記試験 90点 (2)感想レポート 10点 とする
単位判定基準：(1)+(2)が60%以上とする
筆記試験の再試験は1回とし、70点以上を合格とする

自己学習

1コマにつき0.5コマ (45分) 以上の自己学習を行うこと

履修上の注意

授業前に教科書の該当章を読んでおくこと

課題として障害を持つ人の手記を1冊読み感想レポートを提出すること：提出日・内容等は授業の中で指定する

テキスト

栢森亮二著「学生のためのリハビリテーション医学概論 第2版」医歯薬出版 2015

オフィスアワー

金曜日 16:30~18:00

研究室・授業用E-mail

k.iwai@kansai.ac.jp

4号館7F 研究室 (8)

講義コード	1E047011
講義名	医学概論
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	E1-2201
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 哲哉	指定なし

目的

医学史、現代における医療問題、開業後に必要な医療倫理を理解する。医療倫理については、生殖医療、パターナリズムとインフォームドコンセント、難病の延命治療、終末器医療の回で講義する。

到達目標

医学、医療に歴史、問題点や意義について自分なりの考え方をもち、問題意識をもって医療に携われるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 西洋医学史 (1) 古代から近世
2. 西洋医学史 (2) 19世紀から現代
3. 東洋医学史 (1) 中国医学史
4. 東洋医学史 (2) 日本医学史
5. 最先端医学
6. 電磁気と医学
7. 戦争と医療
8. 宗教と医療
9. 生殖医療
10. 難病の延命治療、終末器医療
11. 臓器移植
12. パターナリズムとインフォームドコンセント
13. 胃瘻と人工呼吸器
14. 補完代替医療
15. 人口問題と医療

成績の評価

[1] 4択問題の問題集を講義中に配ります。期末試験には、その選択肢を入れ換えたマークシート問題を出します。(80点満点)

[2] 講義中に小テストを行うことがあります。(20点満点)

以上を合計し、60点以上になれば合格です。追再試験は [1] のみ行います。

自己学習

授業1コマにつき2コマ (180分) 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

なし。

参考資料

なし。

オフィスアワー

月曜日9:00～12:00

研究室・授業用E-mail

診療研究棟303

kondo0724538409@kansai.ac.jp

講義コード	1E065011
講義名	英語表現法Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1302
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 仁志	指定なし

目的

- (1) チーム医療の担い手として、多様な人々と協調・協働する際に必要となるコミュニケーション・ツールとしての英語力を、会話を中心に実践を通して身につけること。
- (2) 医療現場での英語によるコミュニケーションを想定して、用語の習得を中心に医療英語の基礎を身につけること。

到達目標

- (1) 身の回りのことに関する英語の文章や表現を理解して、活用できること。
- (2) 英語での日常会話に自信を持てるようになること。

授業計画表

授業計画

1. Berlitz English: Introductions
2. Berlitz English: Food and Meals
3. Medical English: External Body, Orientations and Navigation
4. Medical English: Internal Body, and Medical Fields/Specialties
5. Medical English: Making an Appointment
6. Medical English: Personal Information
7. Berlitz English: At University
8. Berlitz English: Shopping
9. Medical English: Taking Medical History
10. Medical English: Injuries and Trauma
11. Medical English: Illness Pathogens and Toxins
12. Medical English: Review 1
13. Berlitz English: Travel
14. Berlitz English: Review 1
15. Review I

成績の評価

授業内評価とする。すなわち、授業への積極的な取り組み、授業の理解度、会話の流暢さ・正確さ、会話で使用する語彙力で評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。
授業で積極的に話せるよう、しっかり予習・復習をすること。

履修上の注意

授業は、すべて英語で実施する。

テキスト

Berlitz English for University Student (Book 1).

医療英語については、プリントを配付する

講義コード	1E066011
講義名	英語表現法Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1303
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 仁志	指定なし

目的

- (1) チーム医療の担い手として、多様な人々と協調・協働する際に必要となるコミュニケーション・ツールとしての英語力を、会話を中心に実践を通して身につけること。
- (2) 医療現場での英語によるコミュニケーションを想定して、用語の習得を中心に医療英語の基礎を身につけること。

到達目標

- (1) 身の回りのことに関する英語の文章や表現を理解して、活用できること。
- (2) 英語での日常会話に自信を持てるようになること。

授業計画表

授業計画

1. Berlitz English: Places
2. Berlitz English: People
3. Medical English: Examination
4. Medical English: Diagnosis
5. Medical English: Treatment; Emergent and Urgent Care
6. Medical English: Treatment; Outpatients
7. Berlitz English: Activities
8. Berlitz English: Social Activities
9. Medical English: Treatment; Inpatients
10. Medical English: Therapy and Rehab
11. Medical English: Case Management
12. Medical English: Review 2
13. Berlitz English: Health
14. Berlitz English: Review 2
15. Review II

成績の評価

授業内評価とする。すなわち、授業への積極的な取り組み、授業の理解度、会話の流暢さ・正確さ、会話で使用する語彙力で評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。
授業で積極的に話せるよう、しっかり予習・復習をすること。

履修上の注意

授業は、すべて英語で実施する。

テキスト

Berlitz English for University Student (Book 1).

医療英語については、プリントを配付する

講義コード	1E098011
講義名	基礎運動学Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	人体の構造と機能及び心身の発達
科目ナンバリング	E1-2107
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 大介	指定なし

担当教員

大歳 太郎

目的

運動学の総論として、運動の力学的な観点、運動に必要な筋・骨格系、神経系、姿勢、歩行について理解すること。

到達目標

1. 運動力学を理解し説明できるようになる。
2. 関節の構造と分類から運動を理解し、説明できるようになる。
3. 筋の構造と収縮様式から運動を理解し、説明できるようになる。
4. 神経構造と神経伝達、運動制御の観点から運動を理解し、説明できるようになる。
5. 姿勢と歩行を運動学の観点から理解し、説明できるようになる。

授業計画表

回	時限	担当教員	項目	内容
第1回	1時限	木村 大介	運動学の基本①	運動学の定義、身体運動、骨運動、関節包内運動
第2回	1時限	木村 大介	運動学の基本②	運動力学、ベクトル、モーメント、てこ
第3回	1時限	木村 大介	運動と運動器①	骨、関節、関節運動
第4回	1時限	木村 大介	運動と運動器②	骨、関節、関節運動
第5回	1時限	木村 大介	運動と運動器③	基本構造、筋収縮のメカニズム、運動単位
第6回	1時限	木村 大介	運動と運動器④	長さ-張力曲線、筋収縮様式、二関節筋
第7回	1時限	木村 大介	運動と神経系①	神経線維、興奮伝道、シナプス
第8回	1時限	木村 大介	運動と神経系②	中枢神経、運動神経、感覚神経、自律神経
第9回	1時限	木村 大介	運動の中枢神経機構①	反射弓、脊髄反射、姿勢反射、立ち直り反応

第10回	1時限	木村 大介	運動の中樞神経機構②	皮質性反射, 姿勢保持, 平衡速動反射
第11回	1時限	木村 大介	姿勢	姿勢, 重心, アライメント, 金活動
第12回	1時限	木村 大介	歩行	歩行周期, 金活動, 正常歩行
第13回	1時限	木村 大介	運動と呼吸	呼吸器, 換気, 酸素摂取量, 無酸素性作業閾値
第14回	1時限	木村 大介	運動と循環	心臓の機能, 心拍数, 心拍出量, 運動時の循環制御
第15回	1時限	木村 大介	運動学習	記憶, 学習鵜, 運動学習理論

授業計画

回数	内容	担当教員	備考
①	運動学の基本①	木村	運動学の定義, 身体運動, 骨運動, 関節包内運動
②	運動学の基本②	木村	運動力学, ベクトル, モーメント, てこ
③	運動と運動器①	木村	骨, 関節, 関節運動
④	運動と運動器②	木村	骨, 関節, 関節運動
⑤	運動と運動器③	木村	基本構造, 筋収縮のメカニズム, 運動単位
⑥	運動と運動器④	木村	長さ-張力曲線, 筋収縮様式, 二関節筋
⑦	運動と神経系①	木村	神経線維, 興奮伝道, シナプス
⑧	運動と神経系②	木村	中枢神経, 運動神経, 感覚神経, 自律神経
⑨	運動の中樞神経機構①	木村	反射弓, 脊髄反射, 姿勢反射, 立ち直り反応
⑩	運動の中樞神経機構②	木村	皮質性反射, 姿勢保持, 平衡速動反射
⑪	姿勢	木村	姿勢, 重心, アライメント, 金活動
⑫	歩行	木村	歩行周期, 金活動, 正常歩行
⑬	運動と呼吸	木村	呼吸器, 換気, 酸素摂取量, 無酸素性作業閾値
⑭	運動と循環	木村	心臓の機能, 心拍数, 心拍出量, 運動時の循環制御
⑮	運動学習	木村	記憶, 学習鵜, 運動学習理論

成績の評価

期末テスト8割, 小テスト2割

自己学習

- ・解剖学, 生理学の知識が基礎となる科目であるため, 該当科目の予習・復習を授業1コマにつき0.5コマ(45分)以上行って授業に臨むこと.
- ・小テストを実施し, 到達度を確認する.

履修上の注意

受身ではなく能動的に受講し, 積極的に質問等を行うこと.

テキスト

書籍名: 基礎運動学 著者; 中村隆一, 斉藤宏 出版社; 医歯薬出版

参考資料

書籍名: 骨格筋系のキネシオロジー 著者; Donald A Neumann 訳; 嶋田智明, 平田総一郎 出版社; 医歯薬出版

オフィスアワー

月曜日: 16:30~17:30

研究室・授業用E-mail

D715研究室

講義コード	1E139011
講義名	国語表現法
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1301
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 南山 かおり	指定なし

目的

この講義は、コミュニケーション手段の一つとしての「文章表現」について論じる。
 文章による伝達は、今や現代社会において、大きな比重を占めるようになってきた。私たちは、日常生活の様々な場面で、日本語によって文章を綴ることを避けることはできない。それは、医療の現場においても、また同じである。カルテや紹介状の作成等、現場では常に正確で明瞭な文書の作成を要求されるだろう。
 よって、講義の中では、自らの意図するところを的確に表現し、よりよい文章を書くためには何が必要か、身近な事例を通して考えてゆくことにする。

到達目標

的確な言語表現を実現するため、まずは、その表現媒体である「日本語」についての知識を深め、興味を喚起することを第一の目標とする。
 さらにその上で、本当によい文章とは何か、正確に伝えるには何が必要か、について、自身の基準を持てるようになること、それが第二の目標である。
 このことによって、実際の表現の場においても、常に慎重に自らの日本語を見つめ、より深いコミュニケーションを実現する力が身につくものとする。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス — 授業の概要と成績評価について
2. Ⅰ. ことばに敏感になる — 1. 語感をつかむ
3. Ⅰ. ことばに敏感になる — 2. 「思う」と「考える」
4. Ⅰ. ことばに敏感になる — 3. 「ある」と「いる」
5. Ⅰ. ことばに敏感になる — 4. 語源を意識する
6. Ⅰ. ことばに敏感になる — 5. 派生語に注目する
7. Ⅰ. ことばに敏感になる — 6. 漢字と漢語
8. Ⅰ. ことばに敏感になる — 7. 漢語の特徴
9. Ⅱ. 文の構造を考える — 1. 「ハ」と「ガ」はどう違うか
10. Ⅱ. 文の構造を考える — 2. 「ハ」の働き
11. Ⅱ. 文の構造を考える — 3. 「ガ」の働き
12. Ⅱ. 文の構造を考える — 4. 「ハ」の文、「ガ」の文
13. Ⅲ. ことばは変化する — 1. ことばの"揺れ"を観察する
14. Ⅲ. ことばは変化する — 2. 「ら抜きことば」の問題
15. Ⅲ. ことばは変化する — 3. 情報の使い方

成績の評価

50

40

10

レポート提出 %・レポート内容 %・授業への取り組み度 % (授業中の小レポートにより評価) (詳細については、授業時に伝える)

自己学習

講義中に紹介した参考図書や、その他の日本語に関する本を読む等して、普段から「日本語に対する興味・理解を深める」こと。その上で、日常のコミュニケーションの場においても、自身の言語表現に常に気を配るよう努めること。

履修上の注意

課題のレポートは、求める条件を満たして、必ず提出すること。未提出の場合は単位を認定できない。

テキスト

毎回、授業時にプリントを配布。

参考資料

- | | |
|---------------|--------|
| 「日本語練習帳」 | (岩波新書) |
| 「日本語はおもしろい」 | (岩波新書) |
| 「私家版 日本語文法」 | (新潮文庫) |
| 「日本語はなぜ変化するか」 | (笠間書院) |
| 「全国アホ・バカ分布考」 | (新潮文庫) |

オフィスアワー

火曜日 12:30~13:00

講義コード	1E155011
講義名	社会福祉論
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1205
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 駒井 博志	指定なし

目的

社会環境の変化によって多くの可能性がもてる時代になったものの、一方では、様々な理由により社会的な支援（社会福祉）を必要とする人たちも多く存在する。本講では、我が国における社会的な支援を必要としている人たちの状況を理解するとともに、そうした人たちが利用できる法や制度・支援内容に関する理解、また、支援を実践する専門職とその実践方法についての理解を深めることを目的とする。なお、授業は授業計画に基づいて行う予定であるが、授業の進捗状況（学生の理解・関心等）によって変更することもある。

到達目標

社会福祉の支援を必要としている人たちの状況を理解し、その人たちに対する支援の枠組みや支援者、支援制度形成に至る背景・歴史について理解をすること。

授業計画表

授業計画

1. 社会福祉とは何か
2. 社会福祉の基本的な枠組み その1
3. 同 その2
4. 社会福祉の歴史
5. 社会保障制度と公的扶助
6. 児童・家庭の福祉
7. 高齢者問題と社会福祉 その1
8. 同 その2
9. 障害者問題と社会福祉 その1
10. 同 その2
11. 社会福祉の担い手
12. 社会福祉の実践と方法 その1
13. 同 その2
14. 地域福祉について
15. まとめ

成績の評価

定期試験（80～70%）およびミニレポート、授業への取り組み度（20～30%）

自己学習

授業1コマにつき2コマ（90分）相当の予習と復習を行うこと。

参考資料

講義コード	1E157011
講義名	手話
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1309
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 森川 茜	指定なし

目的

聴覚に障害がある人々が用いる言語である「手話」を実践的に学修します。この学修で聴覚障害者の理解を深め、言語を知り、コミュニケーションの枠を広げていくことが目的です。医療の場面でよく使用される手話についても学習します。

到達目標

手話であいさつ・自己紹介・簡単な会話ができ、聴覚障害者の社会資源についての知識も深めます。医療の現場で手話を使って会話ができるレベルを目指します。

授業計画表

授業計画

- 1.聴覚障害者の基礎知識 身振りを学びましょう
- 2.名前を紹介しましょう
- 3.家族を紹介しましょう
- 4.趣味について話しましょう
- 5.数字を使ってみましょう
- 6.家・道案内をしてみましょう
- 7.自己紹介のまとめ
- 8.医療場面でよく使う手話を使ってみましょう
- 9.一日の出来事を話しましょう
- 10.一か月の出来事を話しましょう
- 11.一年の出来事を話しましょう
- 12.災害に関する手話を使ってみましょう
- 13.話し合ってみましょう
- 14.実技テスト
- 15.まとめ

成績の評価

実技を伴う授業のため、授業中の学習態度も踏まえて評価する
 試験40% 平常点20% 学習態度40%で評価する

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと
 復習では辞典を使い繰り返し手話を使うことが重要です

履修上の注意

実技による授業のため、授業態度を重視します

テキスト

「今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう！」

「わたしたちの手話 学習辞典Ⅰ」

一般財団法人 全日本ろうあ連盟 発行

参考資料

その都度紹介する

講義コード	1E169021
講義名	情報科学
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1106
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 入江 真行	指定なし

担当教員

入江 真行

目的

現代の社会にはおびただしい数の情報が流れているが、その中で生活し働くものとして、能率良く必要かつ有用な情報を入手しそれらを整理し分析する能力を身に付けることは大切なことである。さらに、医療従事者にとっては情報モラルや情報セキュリティーも非常に重要である。今後、高度化する医療機器を扱う機会がますます増加することなどから、情報科学・情報技術の重要性を理解し、安全に活用する必要がある。

到達目標

コンピュータの原理からはじめて、文書・画像情報処理、データ処理、情報検索等の基本的な情報処理技術を習得する。さらに、情報化社会の中で安全にICTを利用するための、情報セキュリティーや個人情報保護の基本知識を習得する。

授業計画表

授業計画

01. コンピュータの仕組み、インターネットの仕組み
02. インターネットのサービス－WWWと電子メール
03. インターネットを安全に利用する－情報セキュリティーの基礎
04. 医療者としての心構え－個人情報の保護
05. 医療におけるICTの利活用事例
06. ワードプロソフトの利用－文章作成
07. ワードプロソフトの利用－文章の体裁を整える
08. ワードプロソフトの利用－表の挿入、描画ツールの使用
09. 表計算ソフトの利用－基本操作・表の作成
10. 表計算ソフトの利用－数式、関数の利用
11. 表計算ソフトの利用－グラフの作成
12. 表計算ソフトの利用－データベース機能
13. プレゼンテーションソフトの利用－スライド作成の基本
14. プレゼンテーションソフト－より効果的なプレゼンテーションを目指す
15. まとめ

成績の評価

試験約50%・授業中提出物約50%・受講態度約10%

自己学習

実習では各課題に対して授業中に完成させることを重視しているので、特にパソコン初心者は復習よりは予習を強く勧める（予めテキストに目を通し学習内容のイメージを持つことは大変有効である）。

履修上の注意

授業時間内の提出物の評価が重きを占めるので、欠席しないこと。

テキスト

「実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応」 (noa出版)

研究室・授業用E-mail

irie-mi@umin.ac.jp

講義コード	1E177011
講義名	心理学
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1203
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀 節子	指定なし

担当教員

亀 節子

目的

「人間とはどのような生命体であり、いかに感じ、行動し、生きているのか」という多岐にわたる心理学のテーマの中から、本講義では特に「感情」と「個性」をとりあげることによって、人間理解を深め、広い精神を養っていくことを目指す。

到達目標

人間理解をとおして、自らも周りの人もよくしていこうとする意欲を身につけること。

授業計画表

授業計画

- I 「自らを知る」 & 「他者を知る」
- II 主な心理学者の理論 (フロイト&アドラー)
- III 主な心理学者の理論 (ユング、その他)
- IV 主な心理学者の理論 (マズロー、その他)
- V 感情の心理学 (感情論の略史)
- VI 感情の心理学 (感情の科学)
- VII 感情の心理学 (情動と身体反応)
- VIII 痛みの心理学
- IX 運動指導の心理学的基礎 (感情と行動の適応的变化)
- X 運動指導の心理学的基礎 (個別カウンセリング方法)
- XI 遺伝と環境 (学習と記憶)
- XII 遺伝と環境 (本能の役割)
- XIII コミュニケーション論 (親子の心理学)
- XIV コミュニケーション論 (イメージ論&交流分析)
- XV 古人(いにしえびと)の人間観と528Hz

成績の評価

定期試験(70%) および口頭発表や質疑応答における主体性や集中度(30%)

自己学習

普段から、自らの人格に対する純な向上心を培っておくことが求められる。

履修上の注意

自分自身で感じとって考える、という過程の大切さを認識しながら受講すること。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考資料

講義の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

金曜日 16時から17時

研究室・授業用E-mail

管理棟 2階 204研究室・skame@kansai.ac.jp

講義コード	1E186011
講義名	人間発達学
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人体の構造と機能及び心身の発達
科目ナンバリング	E1-2110
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大歳 太郎	指定なし

目的

ひとのさまざまな発達段階を理解し、その関連性を把握し、臨床応用するための基礎知識を修得する。

到達目標

- 1 人間の行動を「発達」という視点から考えることができる。
- 2 人間発達の道筋に個人差があることを理解することができる。
- 3 人間の発達を支援するために必要なことがわかる。
- 4 関連する書籍や文献などを主体的に調べることができる。

授業計画表

授業計画

- 1 生涯発達とは
- 2 胎児期の発達
- 3 成長と発達
- 4 運動機能の発達①
- 5 運動機能の発達②
- 6 運動機能の発達③
- 7 運動機能の発達④
- 8 手指機能・目と手の協調性の発達①
- 9 手指機能・目と手の協調性の発達②
- 10 コミュニケーションの発達①
- 11 コミュニケーションの発達②
- 12 社会性の発達①
- 13 社会性の発達②
- 14 認知機能の発達
- 15 あそびの発達

成績の評価

定期試験80%、小テスト10%、課題レポート10%

自己学習

毎回の講義の振り返りを、1コマにつき2コマ（180分）以上行う。

履修上の注意

一部、演習を行う。

テキスト

【テキスト】

「リハビリテーションのための人間発達学 第2版」 (メディカルプレス)

【参考図書】

「270動画でわかる赤ちゃんの発達地図」 (MCメディア出版)

オフィスアワー

月曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

4号館7F 研究室 6

講義コード	1E187021
講義名	人体の機能Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人体の構造と機能及び心身の発達
科目ナンバリング	E1-2104
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大島 稔	指定なし

目的

生理学 (Physiology) は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問です。この学問は基礎医学の中で特に重要な科目の一つで、あらゆる西洋医学のベースとなる領域です。作業療法師においてもその重要性にかわりはありません。「人体の機能Ⅰ」では神経・内分泌について講義します

到達目標

神経系においては興奮の発生と伝導・伝達による調節、内分泌系においてはフィードバックによる調節を説明できるようにすること。

授業計画表

授業計画

- 1.生理学基礎
- 2.内分泌 (ホルモンの特徴)
- 3.内分泌 (視床下部と下垂体)
- 4.内分泌 (甲状腺と膵臓)
- 5.内分泌 (副腎)
- 6.生殖 (性ホルモン)
- 7.ニューロンの構造と働き
- 8.静止電位と活動電位
- 9.興奮の伝導と伝達
- 10.脳幹、小脳、間脳
- 11.大脳 (辺縁系と基底核)
- 12.大脳 (脳は、脳脊髄液)
- 13.脳神経
- 14.自律神経
- 15.骨格筋の種類と構造
- 16.興奮収縮連関
- 17.心筋と平滑筋
- 18.運動単位
- 19.神経筋接合部
- 20.筋紡錘とゴルジ腱器官
- 21.脊髄反射
- 22.脳幹反射
- 23.錐体路
- 24.感覚の性質

- 25.体性感覚（縮圧覚と痛覚、温度覚）
- 26.体性感覚（上行路）
- 27.味覚と嗅覚
- 28.聴覚
- 29.視覚（遠近調節）
- 30.視覚（受容器と伝導路）

成績の評価

試験において100%評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

生理学、医歯薬出版、第3版

参考資料

授業中に紹介する。

オフィスアワー

月曜日16：30～17：00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F、404研究室
ohshima@kansai.ac.jp

講義コード	1E188011
講義名	人体の機能Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	人体の構造と機能及び心身の発達
科目ナンバリング	E1-2105
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大島 稔	指定なし

目的

生理学 (Physiology) は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問です。この学問は基礎医学の中で特に重要な科目の一つで、あらゆる西洋医学のベースとなる領域です。作業療法師においてもその重要性にかわりはありません。「人体の機能Ⅱ」では植物系生理学について講義します。

到達目標

各項目において恒常性維持がどのように行われているか、理解することを目標とする。

授業計画表

授業計画

- 1.血液
- 2.循環 (心臓)
- 3.循環 (循環調節)
- 4.呼吸 (肺気量)
- 5.呼吸 (呼吸の調節)
- 6.消化 (消化管運動)
- 7.消化 (消化液)
- 8.消化 (肝臓の働き)
- 9.代謝 (エネルギー代謝)
- 10.代謝 (栄養素)
- 11.体温 (熱産生と熱放散)
- 12.体温 (体温調節)
- 13.排泄 (腎臓の働き)
- 14.排泄 (尿の生成)
- 15.排泄 (体液の調節)

成績の評価

試験において100%評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

生理学、医歯薬出版、第3版

参考資料

授業中に紹介する。

オフィスアワー

月曜日 16:30~17:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F 404研究室
ohshima@kansai.ac.jp

講義コード	1E189051
講義名	人体の機能演習
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	人体の構造と機能及び心身の発達
科目ナンバリング	E1-2106
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大島 稔	指定なし

担当教員

樫葉 均、吉弘奈央

目的

実際に測定することで、体のさまざまな機能がどのように調節されているか理解することを目的とする。

到達目標

装置の使い方と装置の原理を理解する、得られたデータから考察をできるようになることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 実習のガイダンスとレポート作成方法
2. 実習講義（血液と循環）
3. 実習講義（呼吸と神経）
4. 血液型の測定
5. ヘマトクリット値の測定
6. オシロスコープに使い方
7. 脈波の測定
8. 肺気量の測定
9. 最大酸素摂取量の測定
10. 心音の測定
11. 心電図の測定
12. 感覚点の測定
13. 二点弁別閾の測定
14. 神経伝導速度の測定
15. 脊髄反射

成績の評価

レポート60%、試験40%で評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

生理学、医歯薬出版、第3版

オフィスアワー

月曜日 16:30~17:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F 404研究室
ohshima@kansai.ac.jp

講義コード	1E194021
講義名	人体の構造Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人体の構造と機能及び心身の発達
科目ナンバリング	E1-2101
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 東家 一雄	指定なし

目的

人体の構造は、作業療法士教育の初期段階で学ぶ必要がある。なぜなら、身体をつくる要素（細胞、組織、臓器など）の形や構造、配置、はたらきに対する正しい理解が、将来、作業療法の臨床で「生きている人の動作や生活」を取り扱うときの知識や技術の基盤として不可欠になるからである。この授業では、人体の構造を体系的に考察する系統解剖学の立場から、骨格系、筋系、神経系の成り立ちについて学ぶことを目的とする。

到達目標

1. 人体は細胞、組織、器官、器官系が階層的・体系的に集合して成り立つことを理解している。
2. 人体を支える各部の骨格の構造及び各部の骨の名称や形を理解している。
3. 人体の運動を生みだす各部の筋の名称やはたらきを理解している。
4. 人体の諸機能を統制する神経系の成り立ちと各部の構造を理解している。

授業計画表

授業計画

1. 受講ガイダンス、人体の成り立ち
2. 人体の骨格の概要
3. 頭蓋の骨
4. 脊柱の骨
5. 胸郭の骨、骨盤の骨
6. 上肢の骨①
7. 上肢の骨②、下肢の骨①
8. 下肢の骨②
9. 関節の構造
10. 主要な関節①
11. 主要な関節②
12. 骨系の復習（小テストを含む）
13. 人体の運動のしくみ
14. 上肢の筋①
15. 上肢の筋②
16. 上肢の筋③
17. 下肢の筋①
18. 下肢の筋②
19. 下肢の筋③
20. 体幹の筋①

21. 体幹の筋②
22. 体幹の筋③
23. 筋系の復習 (小テストを含む)
24. 神経系の概要、脳室系
25. 中枢神経①
26. 中枢神経②
27. 中枢神経③
28. 末梢神経①
29. 末梢神経②
30. 末梢神経③

成績の評価

授業中に行う2回の小テストの成績 (各25%) と定期試験期間中に行う筆記試験の成績 (50%) に基づき評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 (第4版)」 (医学書院)

参考資料

「プロメテウス解剖学アトラス」 (全3巻) (医学書院)

オフィスアワー

毎週水曜日 16:30~18:00

研究室・授業用E-mail

管理棟2階201研究室・ktohya@kansai.ac.jp

講義コード	1E195011
講義名	人体の構造 II
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	人体の構造と機能及び心身の発達
科目ナンバリング	E1-2102
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 東家 一雄	指定なし

目的

人体の構造は、作業療法士教育の初期段階で学ぶ必要がある。なぜなら、身体をつくる要素（細胞、組織、臓器など）の形や構造、配置、はたらきに対する正しい理解が、将来、作業療法の臨床で「生きている人の動作や生活」を取り扱うときの知識や技術の基盤として不可欠になるからである。この授業では、人体の構造を体系的に考察する系統解剖学の立場から、循環器系、内臓系、感覚器系の成り立ちについて学ぶことを目的とする。

到達目標

1. 体内物質の運搬を司る血管・リンパ管と心臓の名称や構造を理解している。
2. 人体の栄養、呼吸、排せつ等を司る各部の内臓の構造やはたらきを理解している。
3. 外部環境の変化を感受する各種の感覚器の構造やはたらきを理解している。

授業計画表

授業計画

1. 循環器系の概要、心臓
2. 動脈系①
3. 動脈系②
4. 静脈系
5. リンパ系
6. 内臓系の概要、消化器系①
7. 消化器系②
8. 消化器系③
9. 呼吸器系
10. 泌尿器系
11. 生殖器系
12. 内分泌系
13. 皮膚
14. 視角器
15. 平衡聴覚器

成績の評価

定期試験期間中に行う筆記試験の成績（100%）に基づき評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（第4版）」（医学書院）

参考資料

「プロメテウス解剖学アトラス」（全3巻）（医学書院）

オフィスアワー

毎週水曜日 16:30～18:00

研究室・授業用E-mail

管理棟2階201研究室・ktohya@kansai.ac.jp

講義コード	1E196051
講義名	人体の構造演習
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	人体の構造と機能及び心身の発達
科目ナンバリング	E1-2103
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 東家 一雄	指定なし

担当教員

備前 宏紀

目的

この授業では、人体の構造I・IIで学修した人体各部の骨筋系の構造について、人体模型や骨標本等を用いた演習作業により三次元的理解を深めること、また、人体の主要臓器プレパラートの顕微鏡観察により各臓器の基本的な組織構造を理解し、機能との関連性を考察する力を養うことを目的とする。

到達目標

1. 人体の骨格と各部位の骨がもつ構造上の特徴について理解している。
2. 人体で表在する主要な筋の位置や付き方について理解している。
3. 人体の主要臓器がもつ基本的な組織構造について理解している。

授業計画表

授業計画

1. 演習ガイダンス（標本の取り扱い方）
2. 骨学演習①（全身骨格の組み立て）
3. 骨学演習②（頭蓋/脊柱・1回目）
4. 骨学演習③（頭蓋/脊柱・2回目）
5. 骨学演習④（胸郭/骨盤・1回目）
6. 骨学演習⑤（胸郭/骨盤・2回目）
7. 骨学演習⑥（上肢/下肢・1回目）
8. 骨学演習⑦（上肢/下肢・2回目）
9. 筋学演習①（頭頸部）
10. 筋学演習②（胸腹部、背部）
11. 筋学演習③（上肢）
12. 筋学演習④（下肢）
13. 組織学演習①（顕微鏡操作法、心臓）
14. 組織学演習②（消化器系臓器）
15. 組織学演習③（泌尿器系臓器）

成績の評価

課題終了後に提出する演習作業ノートの評価（60%）と定期試験の成績（40%）に基づき評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。
自分の身体を触れるとき、皮膚の下にある骨や筋の存在を意識し、知識を確認してみることに。

テキスト

「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（第4版）」（医学書院）

参考資料

「プロメテウス解剖学アトラス」（全3巻）（医学書院）

「入門組織学（改訂第2版）」（南江堂）

オフィスアワー

毎週水曜日 16:30～18:00

研究室・授業用E-mail

管理棟2階201研究室・ktohya@kansai.ac.jp

講義コード	1E221011
講義名	生涯スポーツⅠ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1207
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし
教員	五十嵐 純	指定なし

担当教員

渡辺俊哉

目的

慢性的な運動不足による体力の低下は身体にゆがみを引き起こし、様々な疾病の原因となることが知られている。生涯スポーツⅠではこれらの疾病の予防・改善に有効なスポーツ・運動を適時実践し、生活の中に意識的に運動を取り入れて行けるようにすることを目的とする。

到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス（次週からの種目選択）
 2. ソフトボールの実践①
 3. ソフトボールの実践②
 4. ソフトボールの実践③
 5. ソフトボールの実践④
 6. ソフトボールの実践⑤
 7. ソフトボールの実践⑥
 8. ソフトボールの実践⑦
 9. 卓球の実践①
 10. 卓球の実践②
 11. 卓球の実践③
 12. バドミントンの実践①
 13. バドミントンの実践②
 14. バドミントンの実践③
 15. バドミントンの実践④
- 【太極拳コース】
2. 太極拳の実践①
 3. 太極拳の実践②
 4. 太極拳の実践③
 5. 太極拳の実践④
 6. 太極拳の実践⑤

7. 太極拳の実践⑥
8. 太極拳の実践⑦
9. 太極拳の実践⑧
10. 太極拳の実践⑨
11. 太極拳の実践⑩
12. 太極拳の実践⑪
13. 太極拳の実践⑫
14. 太極拳の実践⑬
15. まとめ

成績の評価

実技試験50%・授業に対する取り組み状況50%にて評価。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

オフィスアワー

木曜日昼休み 12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 313研究室

aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	1E222011
講義名	生涯スポーツⅡ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1208
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし
教員	五十嵐 純	指定なし

担当教員

渡辺俊哉

目的

筋力やバランス能力の低下が進むと行動が制限されるばかりでなく、転倒による骨折の可能性、ひいては歩行困難を来す可能性が高まってくる。生涯スポーツⅡでは、体力の維持、増進に有効である様々なトレーニング、体操およびスポーツの実践を通して、心身の良好な状態を維持する知識と技能を学ぶとともに、スポーツの楽しみ方を身につける。

到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 【合同授業】（相澤、渡辺）
ガイダンス 筆記用具を用意し、指定された教室に私服で集合。（第2週から選択する種目を決定する。）
- 【運動ゲームコース】（担当：相澤）
2. ソフトボールの実践①
3. ソフトボールの実践②
4. ソフトボールの実践③
5. ソフトボールの実践④
6. ソフトボールの実践⑤
7. ソフトボールの実践⑥
8. ソフトボールの実践⑦
9. 卓球の実践①
10. 卓球の実践②
11. 卓球の実践③
12. 卓球の実践④
13. 卓球の実践⑤
14. 卓球の実践⑥
15. 卓球の実践⑦
- 【太極拳コース】
2. 太極拳の実践①

3. 太極拳の実践②
4. 太極拳の実践③
5. 太極拳の実践④
6. 太極拳の実践⑤
7. 太極拳の実践⑥
8. 太極拳の実践⑦
9. 太極拳の実践⑧
10. 太極拳の実践⑨
11. 太極拳の実践⑩
12. 太極拳の実践⑪
13. 太極拳の実践⑫
14. 太極拳の実践⑬
15. まとめ

成績の評価

実技試験50%・授業に対する取り組み状況50%にて評価。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

オフィスアワー

木曜日の昼休み
12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 313研究室
aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	1E226011
講義名	生命のしくみ
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1102
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 山崎 尚	指定なし

目的

言うまでもなくヒトは生物である。ヒトが生物である以上、生命を維持するための仕組みは他の生物と共通している。この授業では、そういった生命の維持に必要な様々な仕組みを理解することを目的とする。細胞、生体高分子、遺伝子、代謝、恒常性の維持、生体防御の仕組み、生命の誕生と進化、など内容は多岐に渡るがヒトを理解する上で必要な知識を整理して紹介していく。

到達目標

1. 真核細胞の構造と機能を理解している。
2. 細胞を構成する主たる4種類の高分子の特徴を理解している。
3. 遺伝の仕組みと遺伝子の構造と働きについて理解している。
4. 体内の恒常性がどのような仕組みで維持されているか理解している。
5. ヒトの生殖と初期発生の特徴を理解している。
6. ヒトを含めた生命の進化の概略を理解している。

授業計画表

授業計画

1. 生命とは何か、生物とはどのようなものか
2. 細胞とはどのようなものか
3. 細胞の様々な働き
4. 生命を構成する分子について
5. 体の中で物質はどのように変化するか
6. 遺伝子と遺伝の関係
7. 遺伝子はどのように働くか
8. ヒトの体はどのようにできているか (*)
9. エネルギーはどのように獲得されるか (*)
10. 神経の働きと感覚器
11. 恒常性の維持～ホルモンの働き
12. 病原体の侵入をどう防ぐのか
13. ヒトの生殖と初期発生
14. 生命の誕生と進化 (*)
15. ヒトと環境

*は授業の進度により、内容を簡略化する場合がある。

成績の評価

毎授業時に配布するミニツツペーパーの提出 (20%) と定期試験期間中に行う筆記試験の成績 (80%) に基づき評価する。

自己学習

授業1コマにつき45分程度の予習、復習を以下を参考に行うこと。

- 1) 授業前に教科書の該当する部分を読む(15分程度)。
- 2) 授業後にはノートを見直し、不明な点がないか確認する(30分程度)。。

テキスト

「ヒトを理解するための生物学」(掌華房)

参考資料

「アメリカ版大学生物学の教科書全5巻」(講談社ブルーバックス)

「はじめての生理学 上・下」(講談社ブルーバックス)

「エッセンシャル細胞生物学原書第4版」(南江堂)

オフィスアワー

毎週木曜日 10:00~10:40

研究室・授業用E-mail

hi-yamasaki@hyo-med.ac.jp

講義コード	1E229011
講義名	生命の化学
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1104
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩橋 秀夫	指定なし

目的

生体を構成する物質の基礎的な知識の修得を通して、作業療法学を学ぶための基礎知識及び思考力の修得を目指す。

到達目標

生体を構成する物質の基礎的な知識の修得を通して、作業療法学を学ぶための基礎知識及び思考力を修得する。

授業計画表

授業計画

1. 水 (1)
2. 水 (2)
3. 糖 (1)
4. 糖 (2)
5. 脂質 (1)
6. 脂質 (2)
7. 蛋白質・アミノ酸 (1)
8. 蛋白質・アミノ酸 (2)
9. 核酸 (1)
10. 核酸 (2)
11. 酵素とビタミン
12. 消化・吸収
13. エネルギー産生
14. 恒常性の維持
15. まとめ

成績の評価

小テスト (30%)、定期試験 (70%)

自己学習

授業中に課した演習問題を復習しておくこと。

テキスト

配布資料による。

参考資料

「バイオサイエンス化学」 (東京化学同人)

「ライフサイエンス系の基礎物理化学」(東京化学同人)

「生命科学のための有機化学II」(東京大学出版会)

オフィスアワー

月曜日・金曜日(12時20分~13時10分)

研究室・授業用E-mail

410研究室 iwahashi@kansai.ac.jp

講義コード	1E230011
講義名	生命倫理
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1201
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 宗平	指定なし

担当教員

矢本希夫、池田裕明

目的

生命倫理という言葉の歴史は比較的浅く、英語のbioethicsが初めて使われたのは1970年頃である。生命倫理とは、近年の生命科学と医療技術の画期的発展により、生命と医療に関して生じてきた様々な倫理的、社会的問題について議論し、研究することを目的とするもので、医療系の学生にとって学ぶべき必須の科目である。

到達目標

生命倫理の領域は、医療従事者と患者・一般市民とが医療の在り方について対等の立場で論議しあう場であるので、将来、医療人として、生命の尊厳を守る立場に相応しい素養を身に付けることを目標とする。

授業計画表

授業計画

オムニバス形式

- 第一講 生命倫理の歴史と今日的課題
 第二講 医療情報と個人情報保護
 第三講 インフォームド・コンセントとその法理
 第四講 医学研究と倫理—不正行為、利益相反
 第五講 ヒト組織・細胞等の取り扱い—社会的、法的、倫理的問題
 (池田)
- 第六講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その1) —死と終末期医療
 第七講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その2) —安楽死と尊厳死
 第八講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その3) —臓器移植と脳死
 第九講 「先端医療技術と倫理」 (その1) —遺伝子診断と遺伝カウンセリング
 第十講 「先端医療技術と倫理」 (その2) —遺伝子操作と遺伝子治療
 (吉田)
- 第十一講 出生をめぐる倫理問題 (その1) —着床前診断と胚選別
 第十二講 出生をめぐる倫理問題 (その2) —人工妊娠中絶と出生前診断
 第十三講 出生をめぐる倫理問題 (その3) —生殖補助医療技術
 第十四講 出生をめぐる倫理問題 (その4) —新生児医療

第十五講 出生をめぐる倫理問題（その） その他
（矢本）

成績の評価

定期試験、3人で分担出題（多肢選択問題、文章題等）にて行う。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

問題提起に対してよく考え、質問には自分の考えを積極的に述べること。

テキスト

特に指定はしない。講義プリント等による。

参考資料

「生命倫理と医療」（金芳堂）、「生命倫理への招待」（金芳堂）、「学生と考える生命倫理」（ナカニシヤ出版）、「看護学生のための倫理学」（金芳堂）、「医学生のための生命倫理」（丸善出版）

オフィスアワー

月曜日昼休み（吉田）

研究室・授業用E-mail

管理棟2階学長室（吉田）

講義コード	1E310011
講義名	物質と自然のしくみ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1103
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 中村 正信	指定なし

担当教員

中村正信

目的

複雑な現代人の生活も自然現象の中で営まれている。医療従事者による身体ケアの場面や検査・治療・処置の場面においても、自然の法則とは無関係ではない。そこで物質と自然の法則を中心に学び、細かい事項を暗記するのではなくて、前提から導き出す結論に大きな誤りが起こらない力を身に付ける。これは専門科目を学ぶ上で基礎となる。

到達目標

この授業で使用するテキストは、高校で物理を学習しなかった場合でも、自然現象の見方を把握して定性的な理解ができるように書かれたもので、数式をほとんど使わずに説明するよう配慮されている。授業ではできるだけ身の回りの事象を題材に取り上げることにより、身近な現象を見る目と科学する心を持つことを目指す。合わせて、専門科目で具体例を学んだ場合にその内容が理解できるような基礎力を身につける。

授業計画表

授業計画

01. はじめに、狙い、進め方
02. 物理量と物理法則、単位
03. 力とその性質、万有引力と重力
04. 摩擦力と抵抗、力のつり合い、水圧・気圧
05. 速度と加速度
06. 運動の法則
07. 等速円運動、単振動、運動量と力積
08. 仕事、運動エネルギー、位置エネルギー
09. 熱と温度、内部エネルギー、熱力学の法則
10. 波の性質、音波、光波
11. 電荷、クーロンの法則、電流
12. 回路と起電力、オームの法則
13. 磁石と磁場、電流と磁場、電磁誘導
14. 原子の構造、波か粒子か
15. 原子核の崩壊と放射線、核エネルギー

成績の評価

試験約67%・授業中のミニレポート約22%・授業への取り組み度約11%

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。高校で物理を履修していない学生は、テキストにあらかじめ目を通し、特に物理量の名称や記号・単位に注意すること。学習においては、わからない箇所をノートに記入し、「どこまでわかって、どこがわからないか」を見直すことを薦める。

テキスト

「自然科学の基礎としての物理学」（学術図書出版社）

参考資料

学生毎に状況が違うので直接担当教員に相談するのが良い。

例としては次のような本がある。

「まるわかり！基礎物理」（南山堂）

「物理学がわかる」（技術評論社）

オフィスアワー

水曜日（17:00～18:00）

なお希望者は予めE-mail等で連絡をとり場所を確認してください。

研究室・授業用E-mail

E-mail nakamura@kansai.ac.jp

講義コード	1E318011
講義名	保健医療福祉概論
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	保健医療福祉とリハビリテーション
科目ナンバリング	E1-2302
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 和子	指定なし

担当教員

疾患や障害を予防し健康を守り、人々が地域で安心して暮らしていくための制度やサービスについて基礎的な知識を学びます。リハビリテーションは人々のwell-being（良い状態で生きること）に深く関わります。

目的

リハビリテーションの機能と役割に焦点を当て、わが国の保健・医療・福祉の概念と制度及び基本的サービスシステムについて教授する。

到達目標

- 1.わが国の保健医療福祉制度の歴史を理解する
- 2.わが国の医療制度とシステムについて理解する
- 3.わが国の介護保険制度とサービスについて理解する
- 4.わが国の保健医療福祉におけるリハビリテーションの機能と役割について理解する
- 5.わが国の保健医療福祉を取り巻く状況と諸外国の制度の概況を理解する

授業計画表

授業計画

- ①保健医療福祉とは何か
- ②わが国の医療制度 (1)組織と従事者
- ③わが国の医療制度 (2)医療保険制度
- ④わが国の介護保険制度 (1)成り立ちと背景
- ⑤わが国の介護保険制度 (2)仕組みと提供されるサービス
- ⑥わが国の社会福祉制度
- ⑦リハビリテーションと保健医療福祉 (1)組織と従事者
- ⑧リハビリテーションと保健医療福祉 (2)基本的な診療報酬
- ⑨地域に暮らす身体障害を持つ人への支援
- ⑩地域に暮らす発達障害を持つ人（児）への支援
- ⑪地域に暮らす高齢期障害を持つ人への支援
- ⑫地域に暮らす精神疾患を持つ人への支援
- ⑬在宅医療とターミナルケア
- ⑭わが国の保健医療福祉を取り巻く状況
- ⑮WHOの役割と世界の保健医療福祉の概況

成績の評価

筆記試験で60点以上を合格として単位を認定する
再試験は1回とし70点以上を合格とする

自己学習

授業後のノート整理を行うこと
配布された資料は全てテキストであるのでファイルを興し、整理して全て保存すること
授業1コマにつき0.5コマ(45分)の自己学習を行うこと

テキスト

教員の作成資料をテキストとする

参考資料

野村陽子編「最新 保険額講座7 保健医療福祉行政論」メヂカルフレンド社 2015

オフィスアワー

金曜日16:30~18:00

研究室・授業用E-mail

4号館7F 研究室8
k.iwai@kansai.ac.jp

講義コード	1E329011
講義名	法の基礎知識（日本国憲法）
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1202.1
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 池田 裕明	指定なし

目的

法学の基礎的知識日本国憲法について解説することをこの講義の目的とする。しかし、何も難しいことを講義しようとするものではない。むしろ、我々の日常生活の中にいかに多くの法律関係・法律問題が存在しているかということ、伝統的な法学の体系に即した講義を行うことにより、理解してもらいたいと考えている。現実の生活を法的に理解・説明できる素養を習得しようとするものである。

形式としては、通常の講義形式で行う。内容としては、プロローグとして、六法の使い方等について解説したうえで、法の本質、法の種類、裁判制度等の、いわゆる法学の総論的な問題および日本国憲法を扱う。

到達目標

学生諸君の将来の進路に鑑み、可能な限り、医事的・時事的問題もとりあげたい。

授業計画表

授業計画

1. プロローグ
2. 法とは何か
3. 日本国憲法 1 日本国憲法と明治憲法
4. 日本国憲法 2 国会
5. 日本国憲法 3 内閣
6. 日本国憲法 4 裁判所
7. 日本国憲法 5 基本的人権
8. 日本国憲法 6 基本的人権
9. 日本国憲法 7 基本的人権
10. 日本国憲法 8 地方自治
11. 家族と法
12. 医療と法
13. 犯罪と法
14. 労働と法
15. エピローグ

成績の評価

成績評価は、期末とミニッツペーパーおよびレポート等。
なお、詳細については、第1回目の講義において説明する。

履修上の注意

講義形式という制約から、どうしても一方的講義とならざるを得ないが、受講者とのコミュニ

ケーションをはかるために、ミニッツペーパーを随時実施する。このミニッツペーパーでは、課題に答えてもらうと共に、受講者から質問、疑問を提起してもらうことで、それらの問題を講義にとり入れていきたいと考えている。なお、このミニッツペーパーは成績評価の際に、資料の一つとして利用する。さらに、このミニッツペーパーは出席調査の意味ももっている。

テキスト

「目で見える憲法」 (有斐閣)
「現代法学入門」 (有斐閣)
「ポケット六法 (2018年)」 (有斐閣)

参考資料

講義において紹介する

講義コード	1E358011
講義名	臨床心理学概論
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	E1-2202
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 狩野 真理	指定なし

目的

心理学的な問題や症状を抱えた人々を理解し援助するためのひとつの考え方として、臨床心理学に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。この授業では、様々な心理療法や心理面接の技術、心理検査などについて具体的に講義する。さらに、その学びを通して人間理解を深め、同時に自分自身を理解することも目的とする。

到達目標

1. 臨床心理学の基本的な考え方を理解し、他者理解・自己理解を深める。
2. 医療の現場で出会う人々の行動を臨床心理学的な視点から理解し、対人援助に活かす知識を身につける。
3. 学んだ知識を日常生活での経験と関連づけて考え、広い視野で考える習慣をつける。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション・臨床心理学とは何か
2. 基礎心理学
3. 心理面接：心理面接の基本
4. 心理療法1：精神分析療法
5. 心理療法2：来談者中心療法
6. 心理療法3：行動療法
7. 心理療法4：認知行動療法
8. 心理療法5：家族療法
9. 心理療法6：解決志向アプローチ
10. 心理療法7：様々な心理療法
11. 心理検査1：質問紙法検査1
12. 心理検査2：質問紙法検査2
13. 心理検査3：投影法検査
14. 心理検査4：知能検査・発達検査・神経心理検査
15. 学習のまとめ、および目標達成度の確認

成績の評価

期末テスト70%・授業内小レポート30%

自己学習

講義・演習内容を日常生活の中で考え、実践してみてください。

履修上の注意

講義の最後に感想（質問を含む）など小レポートを書き、提出してもらいます。

テキスト

講義の資料として、適宜プリントを配布します。

参考資料

「よくわかる臨床心理学」（ミネルヴァ書房） 山下晴彦（編）

「臨床心理学」（有斐閣） 丹野義彦他（著）

「神経心理学的アセスメント・ハンドブック」（金剛出版） 小海宏之（著）

講義コード	1E416011
講義名	科学の基礎
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1101
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 井本 泰彦	指定なし

担当教員

松本 弘

目的

生物・物理・化学の各分野の基礎項目について十分な知識を持つことにより、専門科目の学習の基礎を確実なものとする。生物分野では、科学思想および科学の方法について教授し、生物の共通性と多様性を学ぶ。物理・化学分野においては、高等学校で学ぶ重要項目の理解を深め専門分野の活動に関係する物理現象を系統的に理解する能力と物質とその変化を化学的に理解する能力を養う。したがって高等学校で履修していない科目がある学生や、理解不足であった学生の受講を望む。

到達目標

- 1.細胞学の歴史と科学の方法が理解できる。
- 2.遺伝子および生殖・発生学の基礎が理解できる。
- 3.専門科目の学習に必要な物理学の基礎が理解できる。
- 4.専門科目の学習に必要な化学の基礎が理解できる。

授業計画表

授業計画

1. 基本的な物理量と単位（質量、加速度、力、重力など）
2. 力の働き（ベクトル、摩擦、仕事、モーメントなど）
3. 圧力（大気圧、血圧、単位、ボイルの法則、分圧）
4. 波の性質（ドップラー効果、超音波）、放射線の基礎
5. 電気（オームの法則、電力、感電、測定機器と人体）
6. 周期表と身近な元素、原子の構造、イオン
7. 分子量、式量、物質量、溶液の濃度
8. 化学変化と化学反応式、酸と塩基、pH
9. 酸化と還元、身近な無機化合物
10. 有機化合物（石油、油脂、炭水化物、タンパク質）
11. 科学と科学の方法
12. 細胞学の歴史と細胞
13. 遺伝子DNAとその複製について
14. 遺伝子からの形質発現の調節
15. 生殖・発生学の基礎

成績の評価

各分野とも、宿題30%、学期末試験70%で評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「スクエア最新図説生物」 （第一学習社）
吉里勝利監修

オフィスアワー

授業終了後

講義コード	1E417011
講義名	統計学の基礎
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1105
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 安藤 仁朗	指定なし

目的

医療の世界では、個人的な経験に基づくのではなく、何らかの「根拠」に基づいた実践が求められます。ここで言う「根拠」とは、誰もが認める科学的に実証されたものでなければなりません。そのため、看護や保健に関する研究では多くの人を対象としたアンケート調査が実施されていますが、得られたデータを解析する方法が適切でなければ、科学的根拠に基づいた結論を導くことは出来ません。そのためには、統計学を学ぶことが必要となります。

そこで、本講義では、上位科目を学ぶうえで基礎となる、基本的な統計処理の方法を学びます。

到達目標

1. 基本的な統計学の用語がわかること。
2. 基本的な統計手法に習熟すること。

授業計画表

授業計画

1. 統計とは、統計学とは
2. 量的データの集計 (1)
3. 量的データの集計 (2)
4. 量的データの集計 (3)
5. 量的データの集計 (4)
6. 量的データの集計 (5)
7. 無作為抽出と正規分布
8. 質的データの集計と検定 (1)
9. 質的データの集計と検定 (2)
10. 質的データの集計と検定 (3)
11. 平均値の差の検定 (1)
12. 平均値の差の検定 (2)
13. 二変数の関連
14. 回帰と推定 (1)
15. 回帰と推定 (2)

成績の評価

定期試験の成績 (100%) で評価します。

自己学習

1. 前回の内容を理解していないと次回の内容を理解することが困難になります。授業1コマにつき2コマ (90分) 相当の予習と復習を行うこと。
2. 欠席した場合、必ず翌週までに内容を確認しておいて下さい。

テキスト

適宜、プリントを配布します。

参考資料

「改訂版 やさしい統計学—保健・医薬・看護・福祉関係者のために」 (桐書房)

講義コード	1E419011
講義名	社会学
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1204
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 木村 弘之	指定なし

目的

講義では、「社会学的なもの見方」について説明していきます。感情、歩き方、子ども、家族、恋愛、結婚、食生活など具体的な事象を例に、社会的変数から焦点を当てることで、そこに意外な視点を発見していく過程を紹介していきます。

到達目標

講義で紹介する「社会学的なもの見方」について理解し、そのように捉えることのメリット、デメリットなどについて考察できるようになること。

授業計画表

授業計画

1. 社会性とは① 感情と社会の規範
2. 社会性とは② ナンパ歩行と身体規範
3. メディアと社会① ジェンダーと性別の捉え方
4. メディアと社会② 社会統計と印象の操作
5. メディアと社会③ 社会の医療化
6. メディアと社会④ 都市伝説と世間
7. 社会階層と社会① 恋愛結婚の受入れ
8. 社会階層と社会② 恋愛結婚と結婚戦略
9. 家族と社会① 高齢化社会のはじまり
10. 家族と社会② 高齢者の役割と居場所
11. 家族と社会③ 少子化社会とスウェーデン幻想
12. 家族と社会④ 児童虐待と育児不安
13. 社会と科学① 3歳児神話について
14. 社会と科学② 母子同室制と育児の知識
15. 社会と科学③ 食育とフードファディズム

成績の評価

毎回のレポートを60%、期末のレポートを40%として評価します。

自己学習

講義内容を応用できる具体例を、日頃の生活の中で色々と探してみることに。

履修上の注意

特にありません。

テキスト

毎回、プリントを配布します。

参考資料

講義の中で、適宜、紹介します。

オフィスアワー

講義終了後、教室にて質問を受け付けます。

講義コード	1E420011
講義名	教育学
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1206
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 北山 敏和	指定なし

担当教員

北山 敏和

目的

「教育＝学校」と狭くとらえるのではなく、私たちの社会や生活のさまざまな場面、例えば家庭や保健医療の場で行われている教育的な営みにも注目し、教育の仕組み、歴史、さまざまな教育実践の形など、教育に関する基本的なことがらについて幅広く学ぶ。

また、仕事や生活など、これからの人生のさまざまな場面で活用できる、“へこたれない力”、自分自身を高め伸ばして行く力、好ましい人間関係を作ってゆく力である「行動する力(＝ライフスキル)」についての基本を理解し、実践できるようにする。

学習はグループ活動とディスカッションを基本とし、受講者がそれぞれに持つ知識、経験、情報を共有することを通して、個人の能力だけではなく集団としての能力が高まることを体験的に学ぶ。

到達目標

- 1 教育の目的や方法、基本的な制度や仕組みが分かる
- 2 人間の「能力」と「教育」の関係が分かる
- 3 発達段階とその行動特性が分かる
- 4 行動する力＝ライフスキルと健康な社会の関係について分かる
- 5 ライフスキル使って実生活を改善向上させることが出来る

授業計画表

授業計画

1. 教育学で何を学ぶか(オリエンテーション)
2. 遊びと学習：自然な学びと組織的・計画的な学び
3. 教育の仕組みと教育制度：学校って何？
4. 教育と能力：人間の能力の多様性
5. 学力とは何か：将来の生活、仕事に必要な学力について考える
6. 考える力と行動する力：私たちの人生と行動する力＝ライフスキル
7. 発達段階と教育(1)発達段階とは何か
8. 発達段階と教育(2)子どもの発達と行動特性
9. 発達段階と教育(3)思春期／青年期の発達と行動特性
10. 現代の教育問題(1)コミュニケーションと創造的思考
11. 現代の教育問題(2)自尊感情と自信
12. 教育と地域社会：社会参画とサービス活動
13. ニーズに応じた教育：特別支援教育
- 14.

教育と医療の協働：予防医学と健康教育

15.健康な社会と教育：ヘルス・エンパワーメント

成績の評価

授業後のミニレポート50% 課題についてのレポート50%

毎授業後にミニレポートを提出し、授業期間の中間と終了後の2回、課題についてレポートを提出する。

自己学習

将来の自分の生活や職業の場で、知識や技術の専門性以外にどのような必要かについて、情報を集め、授業での活動に反映すること。

履修上の注意

講義中心ではなく、グループ活動を基本としアクティブ・ラーニングで学習を展開するため、準備・後片づけを含め司会進行、記録、発表などの役割を分担し、積極的に自分の意見、考えを発表すること。

テキスト

必要な資料は配布する。

参考資料

「よく分かる教育学原論」 (ミネルヴァ書房)

「育児の国際比較—子ども社会と親たち」 (日本放送出版協会)

「ライフスキル教育入門」 (風人社)

「ライフスキル教育入門」 (風人社)

「対訳21世紀に生きる君たちへ」 (朝日出版社) 司馬遼太郎

研究室・授業用E-mail

質問等があれば E-mailで

heisan.kitayama@nifty.com

講義コード	1E421011
講義名	東洋医療の基礎・導入教育
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	GE-1001
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 東家 一雄	指定なし

担当教員

備前 宏紀、吉弘 奈央

目的

この授業では、大学での学び方について理解し、その具体的方法を習得することを目的とする。また、医療人を目指す学生としての自覚をもち、大学生としての主体的な学修態度や積極的なコミュニケーション能力を養う。

到達目標

1. 授業に臨むに当たり、予習及び復習の学修習慣がついている。
2. 自らの生活について時間管理を行える。
3. 受講、ノートテイク、レポート作成等のスタディスキルを習得している。
4. 文献検索の方法を身につけている。
5. プレゼンテーションスキルを身につけている。

授業計画表

授業計画

1. 大学で学ぶということ (東家、備前、吉弘) [岩井、大歳、木村、森本、藤井]
2. お互いを知ろう (東家、備前、吉弘) [岩井、大歳、木村、森本、藤井]
3. 本学の歴史と理念を知る/スタディスキル① (東家、備前、吉弘) [岩井、森本]
4. 東洋医療を知ろう (東家) [谷]
5. スタディスキル② (東家、備前、吉弘) [森本]
6. 文献検索をしてみよう① (東家、備前、吉弘) [木村]
7. 文献検索をしてみよう② (東家、備前、吉弘) [木村]
8. レポート作成① (備前、吉弘) [大歳]
9. レポート作成② (備前、吉弘) [大歳]
10. クリティカルシンキングと課題解決 (東家、備前、吉弘) [岩井]
11. 特別講義「作業療法士とは」 (備前、吉弘) [村木]
12. PC活用① (東家、備前、吉弘) [森本]
13. PC活用② (東家、備前、吉弘) [森本]
14. プレゼンテーションスキル① (東家、備前、吉弘) [森本、木村]
15. プレゼンテーションスキル② (東家、備前、吉弘) [森本、木村]

成績の評価

課題レポートの評価 (40%)、グループワークへの参加態度 (30%)、プレゼンテーションの評価 (30%) に基づき、総合評価を行う。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「大学生 学びのハンドブック（4訂版）」（世界思想社）

オフィスアワー

毎週水曜日 16:30～18:00（東家）

研究室・授業用E-mail

管理棟2階201研究室・ktohya@kansai.ac.jp（東家）

講義コード	1E806011
講義名	作業療法学概論
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
科目分類・分野名	基礎作業療法学
科目ナンバリング	E1-3101
対象学科・学年	作業療学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 伊藤 恵美	指定なし

担当教員

岩井和子、大歳太郎、村木敏明、木村大介、森本かえで

目的

本講義では作業療法の原理や定義、実践課程を学び作業療法の理解を深めることを目的とする。さらに医の倫理を踏まえた医療専門職としての態度を学ぶことを目的とする。本講義は作業療法学の導入科目であり、作業療法を俯瞰し、作業療法の実践に最低限必要な知識を万遍なく学ぶ。以後の専門科目につながる根幹科目である。

到達目標

本講義の到達目標は、①作業療法の原理や定義を説明できる、②治療手段としての作業及び目的としての作業を説明できる、③作業療法学で用いる理論の概要を説明できる、④作業療法の実践課程と領域を説明できる、⑤作業療法士や医療専門職に求められる資質や倫理観を培う、⑥医療・保健・福祉領域での作業療法士の役割を説明できることである。

授業計画表

授業計画

1. 作業療法とは（作業療法の定義・作業の意味）
2. 作業療法の歴史（世界・日本）
3. リハビリテーションと作業療法
4. 作業療法の領域と対象
5. 作業療法の実践課程（1）評価から介入へ
6. 作業療法の実践課程（2）クリニカルリーズニング・EBM
7. 作業療法理論
8. 作業療法教育と作業療法士に求められる資質・適性
9. 世界の作業療法
10. 作業療法の実際：身体障害領域
11. 作業療法の実際：老年期障害領域（村木）
12. 作業療法の実際：精神障害領域（岩井）
13. 作業療法の実際：発達障害領域（大歳）
14. 作業療法の実際：地域（木村）
15. 作業療法の実際：就労支援（森本）

成績の評価

単位認定には2/3以上の出席が必要。遅刻は3回につき1回の欠席とみなす。
 授業への参加状況（10%）・レポート（30%）・筆記試験（60%）により総合評価する。
 欠席は1回につき3点を、遅刻（30分以内）は1回につき1点を総合得点（100点）から減ずる。

自己学習

1講義の前後に予習・復習として1コマにつき2コマ以上（180分）以上教科書等を読み理解を深めること

テキスト

「標準作業療法学 作業療法概論 第3版」（医学書院）

オフィスアワー

金曜日 12:10~12:30

研究室・授業用E-mail

講師室・emiito@met.nagoya-u.ac.jp（伊藤）

k.iwai@kansai.ac.jp(岩井) 4号館7F研究室8

講義コード	1E808011
講義名	基礎作業学
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	基礎作業療法学
科目ナンバリング	E1-3103
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 備前 宏紀	指定なし

担当教員

吉弘 奈央

目的

本科目では、作業療法の基礎である「作業」について理解していく。また治療手段としての各種作業活動の体験をし、基本的知識や技法、指導・援助方法を習得するとともに作業療法における作業とは何かを学び、作業療法の治療原理の基本を理解する。さらに作業分析を通して、「作業」の作業療法への治療的応用について検討する。

到達目標

各種作業活動の意味を考える事ができる。各種作業活動に用いる材料、道具、工程を説明できる。各種作業活動の作業分析の方法を学ぶ。また、作業分析により作業療法への治療的応用について考えることができる。

授業計画表

授業計画

1. 作業療法における作業とは
2. 作業分析と作業の治療的応用
3. 革細工①
4. 革細工②
5. 革細工③
6. 革細工④
7. 木工①
8. 木工②
9. 木工③
10. 木工④
11. 織物①
12. 織物②
13. 織物③
14. 織物④
15. 陶芸①
16. 陶芸②
17. 陶芸③
18. 陶芸④
19. 治療的作業を考える
20. 作業の基本的概念

- 2 1. グループディスカッション及び発表①
- 2 2. グループディスカッション及び発表②
- 2 3. まとめ

成績の評価

演習への取り組みの姿勢、レポートの内容及びグループ発表に基づき評価する。

自己学習

作業活動の実施前に、材料、道具、工程などを予習して演習に臨むこと。

履修上の注意

作業活動実施時は、安全行うために爪を切る、長い髪は束ねるなど身だしなみを整える。また、活動しやすく、汚れても良い服装を着用して演習に臨むこと。

テキスト

適宜資料を配布する。

参考資料

作業療法学ゴールド・マスター・テキスト「作業学」(MEDICAL VIEW)
基礎作業学実習ガイドー作業活動のポイントを学ぶー(協同医書出版社)
「作業」って何だろう 作業科学入門 第2版(医歯薬出版株式会社)
つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル(医歯薬出版株式会社)

オフィスアワー

月曜日：9時～13時
木曜日：9時～13時
金曜日：9時～13時

研究室・授業用E-mail

4号館6階 第2共同研究室

講義コード	1E814011
講義名	作業療法安全管理学
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	基礎作業療法学
科目ナンバリング	E1-3109
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大歳 太郎	指定なし

目的

医療職を取りまく社会的環境と医療現場の現状を具体的な事件事例を通して理解するとともに、事故発生のメカニズム、医療機関における事故防止の取り組み、医療安全システムなどについて学習する。また、リハビリテーション領域においては、感染症は特に注意が必要であるため、代表的な感染症の臨床像、感染予防策を学習する。さらに、臨床実習をイメージするために、作業療法士がどのように安全対策に努め、病院や施設で働いているか、について具体的に学ぶ。

到達目標

- 1 医療事故の実際を知り、安全対策の必要性がわかる。
- 2 医療事故の発生要因について説明できる。
- 3 医療施設における医療事故防止の取り組みと医療安全システムについて説明できる。
- 4 代表的な感染症について、感染経路、臨床像が説明できる。
- 5 感染症の予防と感染制御対策について説明できる。
- 6 作業療法士の安全対策について、具体的に説明できる。

授業計画表

授業計画

- 1 医療事故の疫学
- 2 医療事件事例の紹介
- 3 医療事故の定義、分類
- 4 医療機関における事故防止の取り組み
- 5 リハビリテーション業務における安全対策①
- 6 リハビリテーション業務における安全対策②
- 7 医療事故の報告制度、事故後の対応①
- 8 医療事故の報告制度、事故後の対応②
- 9 感染症総論
- 10 高齢者、小児の感染症
- 11 感染予防策
- 12 対象者との関わり①
- 13 対象者との関わり②
- 14 作業療法臨床実習と安全①
- 15 作業療法臨床実習と安全②

成績の評価

定期試験 (80%) と課題レポート (20%)

自己学習

毎回の講義の振り返りを、1コマにつき0.5コマ（45分）以上行う。

履修上の注意

一部、演習を含む

テキスト

適宜、紹介する

参考資料

1 病院感染対策ガイドライン 改訂第2版 国公立大学附属病院感染対策協議会 じほう
2015

2 作業療法ガイドライン 日本作業療法士協会

オフィスアワー

月曜日12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

4号館7F 研究室6

講義コード	1E843011
講義名	臨床実習Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	臨床実習
科目ナンバリング	E1-3501
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 森本 かえで	指定なし

担当教員

森本かえで、岩井和子、大歳太郎、木村大介、備前宏紀、吉弘奈央

目的

臨床実習Ⅰでは、1年次の導入教育、作業療法基礎教育の学修内容を踏まえ、臨床実習施設において、実習指導者である臨床作業療法士の指導、監督の下、臨床現場の見学を行う。

学生は、各医療機関、作業療法士配置のある地域福祉施設等において、臨床現場の見学により、作業療法士の対象者対応（治療関係）、作業療法の実施過程、また、リハビリテーション及び医療の臨床過程を知り、作業療法士としてのアイデンティティを構築するとともに、医療従事者としての心構えを学修する。

到達目標

本講義の到達目標は、①実習生として真摯な見学姿勢で臨むことができる、②疑問点等について積極的に質問ができる、③学内で学修した基礎的な作業療法、医学知識と臨床現場での実践をつなげて考えることができる、④対象者や臨床実習指導者と適切なコミュニケーションを取ることができる、⑤見学内容について、レポート、口頭にて報告ができることである。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション
2. 実習 身体障害領域（2日間）
3. 実習 精神障害領域（2日間）
4. 実習 老年期障害もしくは発達障害領域（2日間）
5. 実習報告会

・医療機関、介護老人保健施設、発達障害支援施設、地域訪問事業所等において、2日間の見学を3領域において実施する。

・実習内容は作業療法および、関連部門等の見学を臨床実習指導者の指導、監督の下で実施する。

・実習学生は、見学した実習内容について見学レポートにまとめ、臨床実習指導者に提出して指導を受ける。

・実習修了後は、教員との面談および学生間のディスカッションにより見学した内容について整理し、考察を深める。

成績の評価

・総合臨床実習の単位認定は、臨床実習における成績評定が70%、学内でのオリエンテーションへの出席等を30%として総合評点の60%をもって単位を認定する。

自己学習

・実習参加前に実習先や対象疾患に関する予習をしておくこと

テキスト

「関西医療大学 作業療法学科 臨床実習の手引き」
「標準作業療法学 作業療法概論 第3版」(医学書院)

オフィスアワー

金曜日の昼休み

12:30~12:50

研究室・授業用E-mail

k.morimoto@kansai.ac.jp

講義コード	1E849011
講義名	表現思考型学習
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
科目分類・分野名	発展科目
科目ナンバリング	E1-3601
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 森本 かえで	指定なし

担当教員

森本かえで、備前宏紀、吉弘奈央

目的

本講義ではアカデミック・コミュニケーション（大学生としての学ぶ研究と臨床のためのコミュニケーション）を通して、自ら考え、調べ、論ずることを学びます。学問研究の出発点であり長い人生の中で医療者として役立つ「学問と教養」の基礎を身につけること、そして自分の考えを表現できることを目的とします。同じ疾患でも症状や治療・リハビリテーションの効果に個人差があるように、患者さんの一人ひとりの環境、価値観や人生観は多様です。作業療法士として、様々な表現思考のプレゼンテーション技術を通して、臨床において役立つ思考や技術を様々な方法で学びます。

到達目標

本講義の到達目標は、①アカデミック・コミュニケーションを理解する②問題意識の必要性の認識を持ち、具体的な問題提示、解決に至るまでのスキルを獲得する③様々な手法を体験する④自分の好きなプレゼンテーション技法を用いて自分の考えを発表できる

授業計画表

授業計画

1. アカデミック・コミュニケーションとは何か
2. プレゼンテーションのための情報整理
3. 絵を使ったコミュニケーションの技術
4. プレゼンテーションのためのグラフィックデザイン
5. 映像によるプレゼンテーション：映画と作業療法
6. 医療における適切なコミュニケーション
7. 演劇的手法によるコミュニケーション①
8. 演劇的手法によるコミュニケーション②
9. 効果的なプレゼンテーション技法と発表（全体発表と評価）

成績の評価

積極的な授業参加状況（40%）・最終プレゼンテーション（30%）・課題（30%）により総合評価する。外部講師を含むワークショップが主体であるので、積極的な参加を望みます

最終プレゼンテーションの相互評価方法（出席者全員による）

1. 配布資料・スライドの構成とわかりやすさ（構成・引用規則・参考文献の示し方など）
2. プレゼンテーション技法（声・表情・ジェスチャー・タイムマネジメントなど）

- 3. 質疑応答の適切さ
- 4. 理論の解説と考察が記述されているか

自己学習

授業1コマにつき2コマ (180分) 担当の予習と復習を行うこと

テキスト

配布

オフィスアワー

金曜日 12:30~12:50

研究室・授業用E-mail

k.morimoto@kansai.ac.jp